

# 佐倉市議会 公明党

2013

新春号

2013年2月1日発行 佐倉市議会公明党 佐倉市海園寺町97



## 公約実現！更に推進！

佐倉市議会公明党は、政策提案型の議会活動に努め、市民の皆様への応援もいただき、数々の実績を上げる事が出来ました。

平成23年4月の市議会選挙では、公認候補五人が、「安心・安全なまちづくり」「議会改革の推進」「高齢者と子どもにやさしいまちづくり」「福祉の充実を推進」など4項目の統一公約を掲げました。震災直後の多くの市民の声をもとに「防災行政無線受信機の各戸設置の推進」「少子高齢社会に必要な行政サービスを維持するための「医療・介護計画の推進」「教育改革」「子育て支援などの負担軽減策」を挙げ、現在まで公約実現に向けて毎議会質問に臨んでまいりました。

### 防災ラジオの試験的導入 始まる！

東日本大震災以降、災害時における情報伝達の整備について、「防災行政無線が聞こえない」との市民の皆様の声に、公明党は防災ラジオの導入を訴えてまいりました。試験的ではありますが、いよいよ実現の運びとなり24年11月より配布が始まりました。配布状況は自治会、町内会等の代表者並びに自主防災組織やその他の団体に配布されました。このほかにも、避難所である各学校施設や出張所、保育園、幼稚園、公民館、図書館などの市の出先機関、また防災関係機関として消防署、警察、駅な

どもにも配布されました。

今後の計画については、おおむね半年程度の利用の後に、受信状況等についてアンケート調査を実施し、調査結果を踏まえ、配布先の拡大を検討していく予定となっています。

### 子ども医療費の助成拡大！

これまで佐倉市議会公明党は、子育ての負担軽減へ向け、子ども医療費の助成拡充を訴えてまいりました。これにより、これまでと同様、入院1日200円・通院1回200円の自己負担はあるものの、24年12月から入院・通院とも中学3年生までの助成が始まりました。(千葉県の場合は小学3年生まで)

### コンビニで税等が 納付出来るように！

近年の社会情勢の変化により、市民生活におけるライフスタイルは、多様化しています。共働き世帯などから、納税したくても金融機関の窓口の閉まっている時間帯では都合がつかないという声を多く聞きます。また、県税である自動車税がコンビニで納付できることから、軽自動車税も二階に納付したいとのご要望を受け、コンビニでの納付導入を、23年8月議会で提案いたしました。

このほど市税システムの再構築が整い、25年4月からコンビニ収納が開始されます。(国民健康保険税、保育所保育料、学童保育所保育料を含むすべての市税)



**森野 正**  
 ・建設常任委員  
 ・議会改革推進委員

■ **新たな時代のまちづくり**

■ 本年は、平成に入り四半世紀を迎える区切りの年となりました。

日本が世界に先駆けて突入した高齢化社会では、これまでのような経済の進展は難しく、社会の在り方も変わってきます。

また、平成二十三年の合計特殊出生率は一・三九でした。前年から横ばいながら、出生数は前年比約二万人減少の一〇五万人で過去最少となり、少子化の流れも止まっています。

このような状況下で、地方分権の流れが加速しています。

佐倉市はどのような「まち」を目指すのか、これが定まっていなくて間違いない、市の経営は失敗します。

市長は、私の質問に「中規模でも品格のあるまち」を目指すと答えました。

新たな時代のまちづくりへ向け、行政も議会もこれからの勝負です。



**岡村 芳樹**  
 ・文教福祉常任副委員長  
 ・議会運営委員  
 ・印旛衛生施設組合議員

■ 「住んでみたい佐倉」そして「住み続けたい佐倉」を目指して

市民生活において「安全・安心のまちづくり」は当然として、未来に希望が持てる街で子育てしたい、将来もこの街に住み続けたいと心から思えることこそ、定住化にとって大切な視点であると考えます。

市民と行政の信頼関係のもと、二人三脚で街づくりが行なわれていくことは、理想でありとても大切なことだと思います。

けつして行政まかせでなく、また市民まかせでない、お互いの車の両輪のごとく信頼関係のもとで街づくりすることで初めて成功するのでしょうか。そして未来永劫に街が栄えていく骨格が出来上がると確信します。

これからの市民の皆様の声に真剣に耳を傾け、「誰にも誇れる佐倉」を目指し一生懸命働いてまいります。



**柏木 恵子**  
 ・経済環境常任委員  
 ・広報公聴副委員長  
 ・佐倉市・酒々井町・海潮組合議員

■ **女性の視点で誠実に**

新政権本格始動の本年、国も地方も多くの課題に挑戦しなければなりません。

佐倉市の様々な課題に対しましては、女性の視点で誠実に取り組んで参ります。特に、昨今のニュースで、子どもたちをとりまく環境の変化を非常に危惧するところがあります。昨年もしじめからの自殺、通学路での大事故、児童虐待など、これからの日本の大切な人材である子供たちの死亡事故が相次ぎ、やりきれない思いでした。また、発達障害のお子さんの増加も心配です。

昨年、そのような観点で議会質問の取り組みもしてまいりました。本年は更に、子供たちが安心して育つことが出来るよう、皆様ののためにしっかりと働いてまいります。また、このような時代だからこそ芸術文化施設への取り組みもと決意しております。



**小須田 稔**  
 ・総務常任委員  
 ・議会運営副委員長  
 ・議会改革推進委員  
 ・佐倉市・八街市・酒々井町消防組合議員

■ **好学進取がいま二途一心へ**

昨年、天皇陛下の心臓手術で二躍時の人となった順天堂大学天野教授が著した初めての書「二途一心、命をつなぐ」を読みました。

佐倉市は昨年、女子美術大学に次いで学校法人順天堂とも協定を結んでいます。

教授が、何故天皇陛下の心臓手術を執刀することになったのか。そこに至るまでの挫折、決意、そして己との壮絶なまでの戦いが克明に描かれていきます。

心臓手術と他の外科手術とのいちばんの違いは、がんの場合は腫瘍を取り切れなくてもそこで手術を終わらせることができるが、心臓は治さない限り元には戻れないということ

とです。私もこの二年、「二途一心」の如くひたむきに、ひたすらに前へ前へ佐倉市の為に突き進んでまいります。



**久野 妙子**  
 ・建設常任委員  
 ・広報公聴委員  
 ・佐倉市子育て支援推進委員

■ **皆様の声を届けます！**

昨年末の衆議院選挙で政権が交代し、新しい年の幕開けと共に混迷する社会から景気回復の回復、安定と安心の社会へと期待の声が聞かれます。

佐倉市においても、景気の低迷や高齢化による税収減の中、学校等の防災対策、子育て支援、高齢者対策、農業耕作放棄地対策、地域経済の活性化や観光施策、交通網の整備等々、課題は山積しています。

行政として難しい問題でも佐倉市の将来の為に可能にしていかなければならないことがあると感じます。

その中で、地域の「目と耳」となって一人の声を大切に議会提案に臨んでいます。

これからの佐倉市の発展と住みよい街づくりを目指して粘り強く頑張ります。

